

座長／早稲田大学／鳥居 俊
／立教大学／加藤晴康

東京 2020 の開催が決まり、各競技団体で 2020 年に代表として参加できるジュニア選手の発掘や育成がさかんに行わされてきた。競技によっては卓球など元々ジュニア世代が多い場合もあれば、年長の選手が代表の多くを占める場合もあった。

このシンポジウムでは、各競技団体において次世代を担う選手たちをよりよく育成していくために必要なメディカルサポートについて、4つの競技団体から専門科の異なるスポーツドクターより担当競技での状況と課題を話していただいた。なお、当初発表予定であった能瀬先生はご都合により今回欠演となった。その代理として、総合討論では産婦人科の立場で難波先生（埼玉医大）にも壇上で参加いただいた。

1. バレーボールジュニア代表選手の歯科サポート：太田武雄先生（バレーボール協会）

バレーボール協会ではジュニア代表選手に対して、口腔内検診や歯科的講習を実施し、歯科的トラブルの予防を積極的に呼びかけてきていること、歯列不正がもたらすパフォーマンスへの影響なども積極的に検討をしていることなど、その実際を発表していただいた。

2. 陸上競技におけるジュニアアスリートサポート：鎌田浩史先生（筑波大学整形外科）

日本陸連ではインターハイ選手などジュニア選手のスポーツ外傷・障害調査を行い、その結果を冊子にまとめて配布、啓発活動を行っていること、インターハイや U20・U18 大会では当日発生したけがへの対応だけでなく、相談も受け付けていること、などを発表していただいた。

3. ラグビー競技におけるジュニア選手への安全対策：佐藤晴彦先生（聖隸三方原病院脳神経外科）

ラグビーでは安全対策として年代によりルールに違いを持たせていること、また、重大事故を防止するために、指導者向けの講習会を開催し、特に脳振盪に関する啓発には力を入れていること、を中心に発表していただいた。

4. 生涯スイマーまで目指したメディカルサポートの挑戦～内科的視点から～：渡部厚一（筑波大学）

水泳競技ではスポーツ外傷が少ない反面、腰部障害などオーバーユースによる障害、気管支喘息などの内科疾患、婦人科的問題などさまざまなジュニア選手の問題に対してメディカルサポートが行われてきたこと、女子では若い年代の選手がトップで活躍することが多かったことから、心理面でのサポートも重要なこと、などの内容に加え、能瀬先生が発表予定であった月経対策などの女子選手特有の問題に対する取組も紹介された。

以上の発表の後、演者に壇上に座っていただき、競技団体ごとの特有の課題、歯科、内科、整形外科、脳外科、婦人科という専門科別にみたジュニア世代へのサポートの課題について討論し、また会場にいらっしゃった他の競技団体のスポーツドクターより当該競技特有の課題とその取組についての紹介をいただいた。